A Retrospective Study of 290 Patients with Resectable Benign and Malignant Gastric Neoplasms to Compare Postoperative Outcomes of Endoscopic Resection with and without the Internal Traction Method Using a Spring-and-Loop with Clip (S-O Clip)

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2024-11-22
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 中津, 洋一
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003751

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　乙第 2556 号

A Retrospective Study of 290 Patients with Resectable Benign and Malignant Gastric Neoplasms to Compare Postoperative Outcomes of Endoscopic Resection with and without the Internal Traction Method Using a Spring-and-Loop with Clip (S-O Clip)

早期胃癌 ESD に対する“S-O クリップ”を用いたトラクション法の有用性について

中津 洋一（なかつ　よういち）

博士（医学）

論文内容の要旨

内視鏡的粘膜下剥離術(ESD)の開発から 20 年以上が経過し、胃腫瘍に対する ESD は現在、リンパ節転移の可能性が低い粘膜内悪性腫瘍の病変に対して標準治療として認知されている。しかし、技術的に未だ困難であり、専門内視鏡医によって行われるか、あるいは専門内視鏡医の指導の下で行われており、実施可能な施設も限られている。その解決策の一つとして、トラクションデバイスが開発されてきた。本研究では、大腸 ESD に対して開発され市販されている S-O クリップ（ZEON MEDICAL）を、早期胃腫瘍に対して全周切開直後から計画的に使用した治療戦略の有用性を後方視的に検討した。

2017 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までに順天堂大学附属浦安病院消化器内科で ESD を受けた早期胃腫瘍の 347 名のデータを解析した。除外基準から、290 名を選択した。当施設では 2019 年 4 月以降、早期胃腫瘍の ESD に対して全周切開直後から S-O クリップを計画的に用いるストラテジーを導入し、治療を行っている。対照群（n=149; 腺腫 4; 癌 137）は 2017 年 4 月から 2020 年 3 月の期間に S-O クリップを使用せず ESD を施行した群と定義し、S-O 群(n=141; 腺腫 1; 癌 148）は、2020 年 4 月から 2023 年 3 月の期間に S-O クリップを使用して ESD を使用した群と定義した。主要評価項目は、手技時間、一括切除率、および完全切除率として、副次評価項目は、患者背景、出血や穿孔などの合併症発生率、病理学的情報とした。サブグループ解析では、内視鏡医の専門性、粘膜下層の線維化、腫瘍の位置に関連する手技時間を両群間で検討した。結果は、S-O 群は対照群と比較して、手技時間が有意に短縮し（44.4±23.9 分 vs. 61.1±40.9 分, $p<0.001$)、切除速度が有意に改善した（25.1±18.9 mm2/min vs. 14.5±9.5 mm2/min)。また、完全切除率が有意に上昇した（97.9% vs. 92.6%, $p<0.05$)。サブグループ解析では、S-O 群で経験数の少ない内視鏡医でも手技時間を有意に短縮することが明らかになった（40.8±18.3 分 vs. 61.1±35.6 分, $p<0.05$)。また、線維化例、体上部症例などの治療困難例に対しても S-O クリップの有用性が明らかになった。従って、早期胃腫瘍の ESD における計画的な S-O クリップの使用は、手技時間と完全切除率の改善に効果的であり、内視鏡医の経験レベルを問わず有益であることが示された。